

【2021年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
解剖学Ⅱ (作業療法学科中心)		必修 (作) 選択 (福)	2	1 (作) 2 (福)	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
志茂 聡	C306	sshimo		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	解剖学Ⅱでは、中枢神経系 (脳・脊髄) の構成および末梢神経 (脳神経・自律神経) の構成を理解することを目的とする。さらに、これらの神経が支配する構造と機能とともに、生理学 (神経系) と関連が深い「感覚器系」の構造と機能を理解することを目的とする。講義では、①中枢神経系 (脳・脊髄)、末梢神経系 (脳神経・自律神経) の構築と解剖学的位置について、②それらの主な機能について説明する。③感覚器の構造と関連する神経の入力・出力について説明する。				
学習上の助言	[事前学習について]毎回の講義の終わりに次回の内容について説明を行うので、次回の内容を予習すること。 [事後学習について]毎回の講義の終わりに自宅課題を提示するので、講義の内容を復習すること。				
教科書	解剖学 標準理学療法学・作業療法学 (専門基礎) 第4版/ 野村巖 (編集) / 医学書院 (2017) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 / 監訳: 坂井建雄 / 医学書院 (2019)				
参考書	解剖学アトラス/ 越智淳三 (訳) / 文光堂 (2013)、解剖学講義/ 伊藤隆著/ 南山堂 (2014) 標準組織学 総論・標準組織学 各論/ 藤田尚男・藤田恒夫/ 医学書院 (2017)				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	中枢神経系の構成および末梢神経 (脳神経・自律神経) の構成を説明できる。		HSU (1) (2)、OT (1) ~ (3)		
②	各神経が支配する構造と機能を説明できる。		OT (2) ~ (3)		
③	感覚器系の構造と機能を説明できる。		OT (1) ~ (2)		
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	神経総論: 神経系の基本的な構成について学ぶ。 脳と脊髄の構造および髄膜について学ぶ。	講義	神経系の基本構造について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
2	中枢神経 2: 神経系の発生について学ぶ。	講義	神経系の発生過程を教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
3	中枢神経 3: 延髄・橋・中脳・小脳の構造および機能について学ぶ。	講義	脳幹の構造と機能について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
4	中枢神経 4: 大脳・間脳の構造および機能について学ぶ。	講義	大脳・間脳の構造と機能について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
5	末梢神経 1: 末梢神経系の基本的な構成について学ぶ。	講義	末梢神経の構造と機能について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
6	末梢神経 2: 脊髄神経の走行 (頸部および上肢) および機能について学ぶ。	講義	腕神経叢の構造と支配筋について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
7	末梢神経 3: 脊髄神経の走行 (体幹および下肢) および機能について学ぶ。	講義	下肢筋と支配神経について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
8	第1~7回の授業内容について、課題シート等を確認して復習する。	講義	中枢神経と末梢神経について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
9	脳神経 1: 脳神経Ⅰ~Ⅵの神経核部位および走行と機能について学ぶ。	講義	脳神経Ⅰ~Ⅵについて教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
10	脳神経 2: 脳神経Ⅶ~Ⅻの神経核部位および走行と機能について学ぶ。	講義	脳神経Ⅶ~Ⅻについて教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	
11	自律神経: 自律神経系の構成の機能について学ぶ。	講義	自律神経系の構成と昨日について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4	

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

12	感覚器系 1: 外皮 (表皮・真皮・皮下組織) の基本構造と皮膚感覚器の機能について学ぶ。	講義	皮膚感覚器の構造と機能について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4
13	感覚器系 2: 視覚器 (眼球・副眼器) の基本構造と視覚伝導路について学ぶ。	講義	視覚器の構造と伝導路について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4
14	感覚器系 3: 平衡聴覚器 (外耳・中耳・内耳)、嗅覚器、味覚器の構造と伝導路について学ぶ。	講義	平衡聴覚器 (外耳・中耳・内耳)、嗅覚器、味覚器の構造と伝導路について教科書とプリントを使い、課題シートにまとめる。	4
15	これまでの学習の総括	講義	定期試験範囲の内容を教科書と課題シートを使って確認する。	4
試	定期試験 達成度評価 評価のポイント参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	10	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	40	5	0	0	15	60
	思考・推論・創造する力	10	5	0	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①	✓	筆記試験 (評価割合 60%) を実施して評価する。筆記試験では授業に取り組んだ課題プリントおよび小テストの内容に基づく問題を出題し、理解度を問う。	試験の添削・返却・解説をおこなう。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	講義に対応した課題 (課題シート) を、各講義後に提示する。評価割合は 10% とする。	課題シートの添削・返却・解説をおこなう。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①		各講義での小テストおよび口頭試問により評価する。評価割合は 30% とする。	小テストの添削・返却・解説をおこなう。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

担当教員：◎志茂聡

教員の実務経験：担当教員は、解剖学で博士号（医学、山梨大学）を取得しており、本学（専任教員）および山梨大学医学部解剖学講座構造生物学教室（非常勤講師 平成 31 年現在）にて長年解剖学の教育に携わってきた解剖学教育の専門家である。作業療法士免許を有し、実務経験は 10 年である。

実践的授業の内容：解剖学における人体の構造に関わる項目の概念は、書物や視聴覚教材によって理解できると思うが、臨床時に応用できるまでの確固たる知識やイメージを獲得しにくい部分が多々ある。この授業では、実際に人体解剖に携わってきた教員により、経験に基づく様々な視点から人体の構造についての具体的な解説がなされるため、やがて臨床家となる受講者にとっては実際に即した知識を獲得でき、受講者の疑問への対応を通して、より実践的な教育を受けることができる。また、事前事後学習（自宅含む）として、各回の内容に沿った課題を web 上で確認できるようにしている。

今後の社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。

大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。